

第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

温室効果ガス総排出量推計結果

2020年度（令和2年度）

環境部環境保全課

第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

1 計画策定の概要

計画期間	2016年度（平成28年度）～2020年度（令和2年度）
対象範囲	本市の行う全ての事務事業・施設
対象ガス	二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン（HFC-134a）
基準年度	2014年度（平成26年度）
目 標	2020年度までに基準年度と比較して5%削減する 基準年度 57,538t-CO ₂ → 2020年度目標 54,661t-CO ₂

2 計画の目的

本計画は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条の3の規定に基づき、本市で実施する事務・事業に伴い排出される温室効果ガスを抑制するための措置について定めたものです。本計画を推進することにより、本市の事務・事業から排出する温室効果ガス排出量を削減するとともに、市民・事業者の自主的かつ積極的な温室効果ガス排出削減のための行動を促すことを目的としています。

3-1 温室効果ガス排出量

2020年度における、本市の事務及び事業に伴い排出された温室効果ガスの排出量を表1に、詳細な排出項目及び基準年度との比較を表2に示しました。2020年度の総排出量は55,038t-CO₂となり、特に排出割合の大きい活動は、電気の使用が42.5%、一般廃棄物焼却が38.1%、燃料の使用が17.8%となりました（表1）。総排出量を基準年度と比較すると2,500t-CO₂減少（4.3%減）しました（表2）。

主要な排出活動について

- 燃料使用（ガソリン、灯油、軽油、A重油、液化石油ガス（LPG）、都市ガス）に伴う排出量は9,785t-CO₂となり、基準年度より1,020t-CO₂減少（9.4%減）しました。
- 電気の使用量による排出量は23,414t-CO₂となり、基準年度より2,566t-CO₂減少（9.9%減）しました。
- 一般廃棄物の焼却による排出量は20,986t-CO₂となり、基準年度より1,246t-CO₂増加（6.3%増）しました。

表1 2020年度の温室効果ガス排出量

排出項目	排出量(t-CO ₂)	構成比
燃料使用	9785	17.8%
電気使用量	23414	42.5%
自動車の走行距離	14	0.0%
HFC-134a(カーエアコンの使用)	7	0.0%
一般廃棄物焼却量	20986	38.1%
下水・し尿の処理	657	1.2%
農業集落排水処理人口	175	0.3%
合計	55038	100%

表2 排出項目別の温室効果ガス排出量及び基準年度との比較

排出項目	活動量			排出量(t-CO ₂)		CO ₂ 増減率	
	単位	基準年度 (2014年度)	令和2年度 (2020年度)	基準年度 (2014年度)	令和2年度 (2020年度)		
燃料使用	ガソリン	L	222,278	185,875	515	431	-16.3%
	灯油	L	671,295	820,367	1,671	2,043	22.2%
	軽油	L	56,946	59,377	146	153	4.9%
	A重油	L	1,467,799	1,048,608	3,977	2,842	-28.5%
	液化石油ガス(LPG)	m ³	615,555	573,559	3,821	3,424	-10.4%
	都市ガス	m ³	305,585	408,061	658	885	34.6%
	ディーゼル機関(定置式)における灯油の使用量	L	-	397	-	0	0.0%
	ディーゼル機関(定置式)における軽油の使用量	L	729	920	0	0	0.0%
	ディーゼル機関(定置式)におけるA重油の使用量	L	301,420	331,378	17	7	-61.7%
	小計				10,805	9,785	-9.4%
電気使用量	kWh	51,447,119	49,271,681	25,980	23,414	-9.9%	
自動車の走行距離	km	2,146,314	1,739,768	12	14	15.1%	
HFC-134a・封入カーエアコンの使用	台	503	492	7	7	1.0%	
一般廃棄物焼却量	連続燃焼式	t	59,022	57,169	998	967	-3.1%
	准連続燃焼式	t	3,128	2,415	72	43	-39.7%
	うち廃プラスチック量	t	6,740	7,211	18,670	19,975	7.0%
小計				19,740	20,986	6.3%	
下水・し尿の処理	下水処理量(終末処理場、流域下水道)	m ³	7,684,641	8,300,460	535	578	8.1%
	し尿処理量(し尿処理施設)	m ³	62,567	63,887	24	78	226.7%
小計				559	657	17.5%	
農業集落排水処理人口	人	12,387	8,122	435	175	-59.7%	
合計				57,538	55,038	-4.3%	

※端数処理の都合により、数値に誤差が生じることがあります。

※表中「0」は、集計した数値が四捨五入して「1」にならないものです。

3-2 基準年度以降の総排出量推移

基準年度から2020年度までの温室効果ガス総排出量の推移は、図1に示すとおりです。年度によって排出量に増減は見られるものの基準年度以降は全体的に減少傾向となっています。

2020年度の総排出量を目標値と比較すると0.7%上回りました。

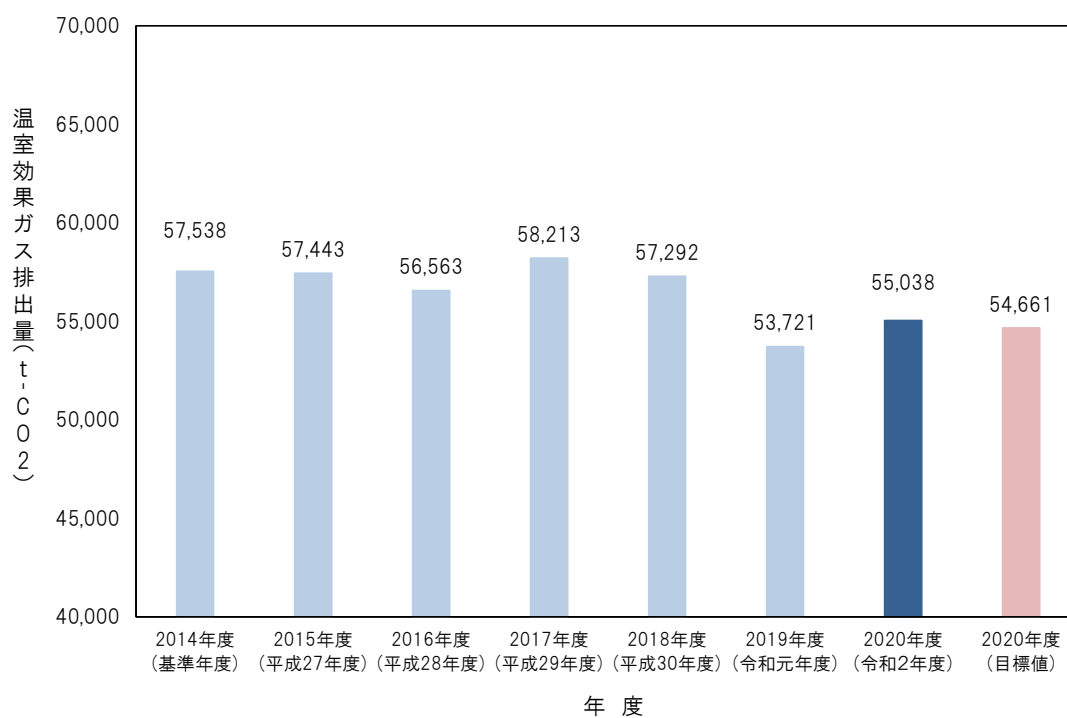


図1 基準年度以降の総排出量の推移

4 課題・対策

①燃料使用の削減

《課題》

- ・施設管理における燃料の効率的利用
- ・施設への高効率機器の導入
- ・公用車の効率的利用

《対策》

- ・省資源・省エネルギー型の機械設備の導入
- ・職員への公用車の使用時におけるエコドライブの普及
- ・カーエアコンの効率的利用と走行ルート合理化
- ・公用車への電気自動車等のエコ車・低燃費車の導入
- ・エコ通勤の推奨等による全職員の意識の醸成

②電気使用量の削減

《課題》

- ・全職員・全施設における省エネ活動の徹底
- ・施設の改修にあわせた省エネ改修の実施
- ・大規模施設における電気の効率的な使用

《対策》

- ・市庁舎、大規模施設への太陽光発電システム等の再生可能エネルギーの導入
- ・職員の節電・省エネに対する理解と実行力の強化
- ・クール（ウォーム）ビズの推進
- ・クール（ウォーム）シェアの推進

③一般廃棄物、一般廃棄物中の廃プラスチックの削減

《課題》

- ・ごみの減量化・再資源化
- ・プラスチックごみの減量化

《対策》

- ・資源保管庫の活用を市民へ周知
- ・分別回収と市民への周知
- ・出前講座等による市民の分別意識の醸成
- ・マイバッグ運動の推進